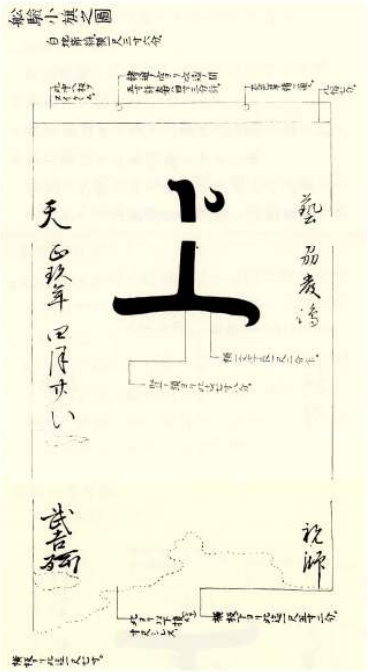
防長古器考とは

防長古器考

安永３年(1774)に完成した「防長古器考」１６１冊は、萩藩が領内規模で行った美術工芸品調査の代表例です。調査対象は藩士・社寺を中心に２１０家に達します。多くは精密な図入りで大変美しく、一部は彩色も施されています。調査された美術工芸品の多くは現在では失われており、その意味で非常に意義深い美術工芸品調査報告書となっています。

描かれた幟旗類

「防長古器考」の中でもっとも多く取り上げられているのが刀剣や甲冑などの武具類で、そのほか幟旗類も対象になっています。そうした幟旗類の中に、当館が現物を保管している例があります。

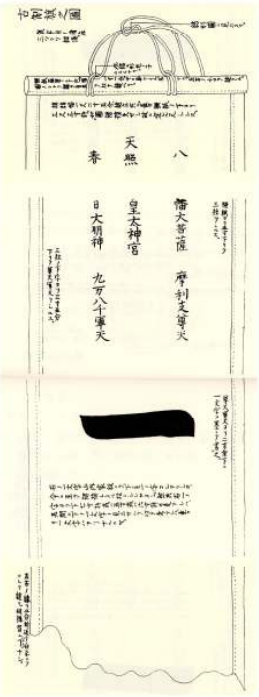


船験小旗之図(防長古器考)

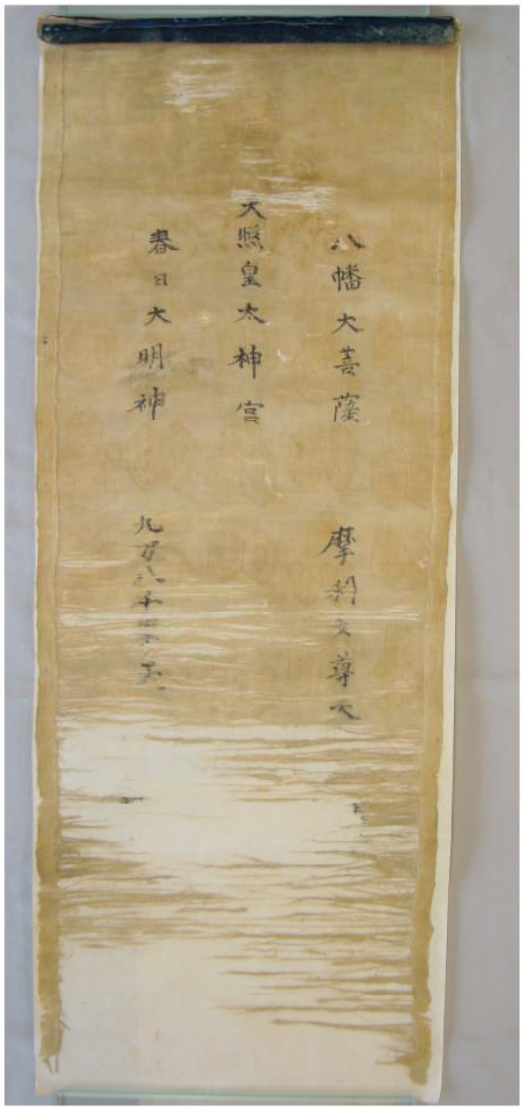
村上武吉過所旗

「村上武吉過所旗」は、中世村上水軍の旗として有名なものです。「上」と大書され、天正９年(1581)の年紀と「武吉」の署名・花押があるこの旗は、「防長古器考」に図入りで「船験小旗」として収録されています。

また山内家文書573に「古制旗」と称されるものが残されています。上部に三社と二天が書かれていますが、下部は損傷が著しく、現在では文字の判別が困難です。しかし、「防長古器考」により、山内家の家紋「一」が描かれていることがわかります。



古制旗之図(防長古器考)



山内家伝指物(古制旗)

「御家来中古物之覚」

館蔵資料の中には、「防長古器考」とよく似た別の調査書も存在します。「御家来中古物之覚」と題書されるもので、毛利家文庫16叢書45のほか、多賀社文庫323と福尾猛市郎収集史料12にあり、江戸時代、古物愛好趣味が一定の拡がりを見せていたことがわかります。　調査対象は４０家で、うち３４家が萩藩士で占められています。図は付随しない文章だけのものですが、記載項目の多くは「防長古器考」と重なっています。成立年代は「防長古器考」より一世代ぐらい後のものと考えられ、ごく一部は「防長古器考」に載らないものも含まれています。

御家来中古物之覚

今回の資料小展示は、第９回アーカイブズウィークにおけるアーカイブズ展示「古文書に見る防長の美術工芸品」のキャプションと解説資料を共用しています。